

序

今日、数論のテーマは多岐に渡り、その手法は精緻の度を深める一方で拡大の途を辿り、その全貌を把握することは増々困難になりつつあるように見える。

今回のこの研究集会の主テーマである「指数和(三角和)」は、解析数論の重要な一つの支柱であるが、その核心に触れる基本的な講演を何人かの方々に御願ひして、その発展の歴史や現状を解説し、展望していただいた。指数和の支柱に連結して、関連する他のテーマに属する講演もいくつかあり、この集会を更に彩った。そして巻末には試みとして何問かの未解決問題を載せたが、そのうちのあるものは集会における討論中に現われたものであり、今後の研究の刺激、素題として考えていただければ望外である。

算術と解析の邂逅の地である解析数論の世界の多様さと深さが、この集会と報告集を通して更に明瞭となることを期待したい。

鹿野 健